



獣医師Mはなぜ プロサイトDx 導入を決意したのか？

村田 裕史 先生 (京都中央動物病院 院長)

京都中央動物病院 〒600-8357 京都市下京区柿本町582-3
 獣医師7名/動物看護師9名 ホームページ <http://kyotochuoah.com/>

この依頼には本当にびっくりした。今までTipsに出ている先生は石田先生を始めいずれも有名な先生方ばかりである。依頼を断るつもりでIDEXXの担当者話を聞くと、学術的な内容や症例発表のようなスタイルでなく一般臨床医プロサイトDxユーザーの意見が欲しいとのこと。これであれば自分でも書けるかな？これも経験だと前向きに考えてみる。そんなわけで、いつものTipsのようにちょっとためになる読み物ではない。今回のTipsは一般臨床医プロサイトDxユーザーのreviewである。

プロサイトDxを使用する前は、某社の血球計算器を使用していた。この血球計算器は自分が臨床獣医師になったときにはNo.1ブランドとしての地位を築いており、勤務医時代から自分で開業してプロサイトDxにするまで10数年間、かなり長い時間使い続けていた。血球計算器と言えばこれが業界としてのスタンダードなのだと信じていた。それが1年半前の動臨研でIDEXXのブースでプロサイトDxの存在を知ったのが始まりだった。そこからプロサイトDx導入は恐ろしくスピーディーであった。某社の血球計算器とプロサイトDxの違い、そして、日々の使用で感じることは何か？ 1.赤血球系2.白血球系の2つについて述べたい。

1. 赤血球系

今までの血球計算器と異なりプロサイトDxの導入の決定打、そして、日々の使用で魅力的と感じる点は、網状赤血球の評価ができることである。貧血症例が来院すると原因は何か？免疫抑制剤を使用すべきか？緊急に輸血？予後は？など様々な疑問が臨床医の頭を駆け巡ることになる。症例の状態が悪い場合などには更に混乱に拍車がかかる。このようなときに網状赤血球を表示し、そこから再生性及非再生性を簡単に評価できる点は本当に大きい。この代わりにニューメチレンブルー染色し、塗抹をカウント評価すれば良いのだが、これが時間的に難しいのが一般臨床医である。もし、この点に魅力を感じるのであればそれだけで導入を検討する価値がある。自分もプロサイトDx導入前まで思っていたことでもあるが、ニューメチレンブルー染色して網状赤血球をカウントまでしなくても、通常のディフクイック染色で血液塗抹を眺めれば、多染性や大小不同などの傾向から再生か非再生性の区別はつくと言われることがある。塗抹の観察が大切であるのは間違いの

ない事実だが、このような主観的な評価方法と比較し、プロサイトDxの表示はIMHA症例などの経過観察において、HCT値だけでなく再生像の傾向もつかむことができる。貧血が改善し再生像も落ち着いていることを確認し、プレドニゾロンなどの免疫抑制剤の減量をしていくといったことを短時間で判断できるメリットは非常に大きい。



写真上: 実際の測定風景。ワンタッチで簡単。簡単なので看護師も笑顔。

写真右: EDTA管に入れた血液。この血液量はプロサイトDxでの数少ない注意点。



2. 白血球系

今までの血球計算器と異なり、白血球の分画を迅速に提示する点が魅力的である。これも確かに事実であるが、この分画を自動で表示するだけでなく、プロサイトDxは分類に自信がないときには、結果に「*」をつけてくる。この「*」があれば塗抹を評価すると院内でルールを決めており、プロサイトDxが判断できない症例については塗抹で判断するようにすると診断精度を保つことができ、塗抹評価を行うべき症例の選択ができる。



アイデックス ラボラトリーズ株式会社

〒168-0063 東京都杉並区和泉1-22-19 FAX 0120-22-3923

登録するだけでTipsやセミナー動画を自由に閲覧いただけます。

IDEXX お客様専用サイト www.idexxjp.com

世界の英知を集めた動物専用の自動血球計算装置

IDEXX プロサイト Dx™